

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400485
法人名	ハッピーナカオ株式会社
事業所名	グループホーム はなみずき
所在地 (電話番号)	福岡県太宰府市水城6-15-28 (電話) 092-918-8766
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(平成21年1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独) (新築) 改築
建物構造	鉄骨 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月 29日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西第一病院、セントラル歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古の歴史と文化の香りが漂う大宰府市。自然環境にも恵まれた閑静な住宅街の一角に位置し、高台であることから、玄関前の展望と空間がすばらしいホームでもある。洒落たデザインの建物の内部は、家庭的な雰囲気、訪問調査時も絶えず童謡・唱歌が静かに流れ、リビングでは利用者も落ちついた雰囲気の中で、安心して穏やかな生活を営んでいる姿が見られる。昨年管理者が急に交代したこともあり、男性二名のケアマネジャーの対応であったが、それぞれが携わったまままでの介護経験から特に認知症介護に深い思いを抱き、グループホームと地域との関わりの必要性和重要性を認識しており、利用者の尊厳を大切に、より一層地域との関わりを深めながら、日常生活の質を高めていくとする意欲が伺え、今後が楽しみで期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で、改善を期待したい項目として挙げられていたが、管理者の交代があったこともあり、改善に向けての取り組みがなされていない。従って改善計画シートも参考書類の提示もされていない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価により日々の活動を見直し、改善点を再確認、評価を運営・介護の指針と受け止めより具体的に実践へと移していきたいとの思いはあり、努力する姿勢は伺えるが、一部の職員のみでの自己評価の理解と取り組みにしか至っていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度の運営推進会議は、市役所介護保険課担当者、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、家族の参加協力にて行われている。地域交流について区長よりアドバイスをもらったり、市役所にホーム便りを届けに行った際、ホームの状況報告するなどし、助言や指導を仰ぎながらサービスの向上に活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族会、運営推進会議での苦情・不安などに対しては、ホーム便りや利用者状況報告などの発行を通じての報告とともに、家族面会時に介護職員やケアマネジャーからの詳細報告という形で対応している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事活動に対するホームからの参加、ホーム行事に対しての地域からの参加、と相互間の交流が行われている。地元中学生の職場体験という学習の場としての協力や、ホーム中庭をグランドゴルフ場として整備し、地域に開放するなど、地元の人々との交流を大切にする取り組みがなされている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちの思い『普段の生活に近い状態で暮らしていただけるようお手伝いいたします』『生きている実感の持てる暮らしを支援いたします』『入居者の体力・知力に合わせたお手伝いを致します』『地域社会と協調した施設として運営して行きます』という独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所に掲げ、毎朝唱和している。地域社会との協調という点においては、地元小学校との交流を深め、職員が講師として関わるなどの取り組みも行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどの地域行事に参加、またホームの行事には区長、民生委員や地域の方の参加協力が得られている。地元中学生の職場体験という学習の場として協力し、ホーム中庭はランドゴルフができるように整備され、地域に開放するなど、地元の人々との交流を大切にする取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価により改善点を再確認し、評価を運営・介護の指針と受け止めより具体的に実践へ移していきたいとのことであるが、評価の意義を全職員が理解しているとはいえない。自己評価を行うにあたり、職員から聞き取りをしているが、職員による自己評価票への記入はされていない。	○	自己評価票は全職員が記入し、その後集約しひとつにまとめることが望ましい。自己評価・外部評価を基に改善計画シートを作成するとともに、具体的な改善に向けて努力することが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行政介護保険課担当者・地域包括支援センター・区長・民生委員のメンバーと家族会も兼ね全家族にも参加を呼びかけている。地域活動への参加交流については、区長よりアドバイスをもらいながら行っている。不十分ではあるが議事録も残され、サービス向上に活かす努力がされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、ホーム便り「はなみずき通信」を発行している。その都度市役所に持参し、合わせて現状報告を行い、必要に応じ助言・指導を仰いでいる。地域包括支援センター担当者に、介護保険改正時の対応について相談している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政からの資料を基に、朝礼時などマニュアルを読み、全職員で学習、朝礼時不在の職員に対してはマニュアルをいつでも見れるようにしている。「FUKUOKA医療介護ネットワーク」を通じ、研修会に参加、伝達講習を行うなどしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度のホーム便りとともに、2ヶ月に1度、利用者状況や小口現金管理を報告書にて行っている。報告書には家族からの要望欄も設け、日常の介護に反映できるようにしている。家族面会時も介護職員やケアマネジャーより近況や健康状態についての報告がされている。職員の異動等については、新人の場合はその都度紹介しているが離職の場合は、尋ねられたら報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議にて出された意見などを議事録にまとめ回覧している。ミーティング時に話し合い、必要に応じ指導などを行い、反映させるようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は離職者が多かったが、現在は定着してきている。職員の離職に関して、基本的に利用者へは伝えないようにしている。新人職員が慣れるまでは経験のある職員が行動を共にするなど配慮している。昨年、管理者が突然やめることになった際は、利用者へのダメージを防ぐため、ケアマネジャーが全職員の指導をするなどの配慮もしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は性別・年齢などの区別なく採用されている。管理者は「元気・やる気」を重んじ、職員本人の仕事に取り組む姿勢を大切にしている。勤務シフトは本人の希望が取り入れられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は月1回のミーティングで、利用者に対しての人権尊重について伝え、全員で話し合うとともに、必要に応じ職員一人ひとりに対して指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼時、マニュアルを活用、月1回のミーティングに資料を提供し、内部研修を行っている。「FUKUOKA医療介護ネットワーク」や、提携病院で行われる研修会などにも参加しているが、育成するための計画や年間を通じての研修計画などが無い。	○	研修の年間計画を立て、きちんと実施記録を残すようにしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「FUKUOKA医療介護ネットワーク」への定期的な参加、市役所や地域包括支援センターなどでの情報収集を行い、サービスの向上に向けての努力はなされているが、同業者間との交流はなく、職員の個人的な付き合いでの交流、情報交換が行われているのみである。	○	同業者との交流を通じ、他ホームを見学したり、職員間の交流を通しての意見交換や学ぶ機会を作るなどし、サービスの質の向上につなげられるようにしていくことが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、家族と十分に話し合い、その後、本人が見学し入居するようにしている。特に入居後1週間程は密なかかわりを持ち、安心して生活できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員から見て、親や祖父母に当たる世代の利用者に対して、「されたくないこと」や「してあげたいこと」を考え、心のつながりを大切にし、身体ケアに当たることを心がけている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族等から生活歴や趣味等を伺い、また日々のかかわりの中から希望や意向の把握に努めている。思いをうまく伝えられない利用者には、表情や行動から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から得た意見やアイデアまた本人の生活歴を反映した介護計画書を、本人・家族・職員と話し合い作成している。また家族が参加できない時は、面会時に話を聞きとり介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化や、家族の要望があった際は、介護計画書の変更を行っている。職員一人ひとりがケアプラン用紙に問題点や改善策を記入し、毎月1回のケアプラン委員会でも話し合い現状に即した計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の見舞い、洗濯物の受け取りを行なっている。また受診時の送迎や他科受診の支援、緊急時の受診対応を行なっている。家族の宿泊や食事の提供など、本人・家族の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが、かかりつけ医については本人及び家族等の希望に添っている。受診の対応については職員が同行しており、家族への受診報告は、毎月のお知らせや・面会時や電話等で行なっている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者への看取りの経験はない。今後、ご家族の要望があれば看取りを行っていく方針である。その時々状態に合わせ、家族、主治医、職員等、繰り返しの話し合いを持ち全員で方針を共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの状況に合わせた対応やプライバシーを尊重した言葉かけを行っている。記録等の個人ファイルは家族がいつでも閲覧できるようにカウンターの所に設置している。	○	記録等には利用者個人の情報も記載されているので、誰の目にも触れやすい場所を避けて、保管場所を工夫されることが望まれる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居間でテレビを観たり、お話や歌を唄ったり、買い物の希望があれば一緒に出かけ、一人ひとりの希望に添えるよう取り組んでいる。また思いをうまく伝えられない方は表情をくみ取り居心地良い支援に努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ママのすじ取りや皮むき等簡単な下ごしらえは利用者も行っている。食事中は童謡が流れ、ゆったりとした雰囲気作りがされている。一人ひとりのペースに合わせた食事や食事形態にされており、職員が利用者と同じテーブルを囲み会話や食事をする楽しみを味わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日以外は、朝から夕方まで毎日入浴の支援を行っている。入浴を拒否される方がいれば、声かけの仕方や時間をおいて入浴を勧めたり、翌日入浴をして頂き、無理強いはしないようにしている。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴の楽しさを支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、茶碗を拭く人、縫い物や手芸の得意な人、また植木や菜園の収穫、草取り等一人ひとりの生活歴や得意分野を活かし気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画は作っているが、それ以外に外出の機会を多く取り入れている。その日の天候や体調を考慮し、お弁当持参で四季折々の花見や近くの公園に行ったり、レストランでの食事の希望があれば出かけている。またパンが食べたいと要望があれば、一緒にスーパーに行くなど、一人ひとりの希望に添うよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、施錠しなかった為、利用者が外に出られた事があり、その後、玄関と玄関と廊下の間の引き戸の二箇所がロックされている。各居室の窓には、安全の為、2重に施錠がなされている。	○	閑静な住宅街にあり、ホームの敷地内は広々としている。鍵をかけることで利用者の精神的不安を考え、鍵をかけないケアに取り組む工夫をされることが望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策の組織図とマニュアルは作成している。毎年消防署と合同で避難訓練を実施している。運営推進会議においても協力を得られるよう働きかけを行っているが、今後はもっと地域住民からの協力を得られるよう取り組みを検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った食事形態が工夫されている。胃腸の方は口から食べる楽しみを忘れないよう、とろみ食や刻み食などその時の状態や食事摂取ペースに合った取り組みがなされている。また栄養バランスを考えた食事内容が作られ、水分量は一日を通じて飲水量の把握が出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地内は菜園や花壇、暖かくなると芝生にはグランドゴルフができるよう楽しみの場が設けられている。ホーム内は自然の日差しが入り、リビングは職員と利用者が常に会話できる関係が作られている。長椅子や畳のコーナー等があり、テレビを観る人、職員と一緒に歌を唱う人、利用者が思い思いの場所で過ごす事ができるよう、居心地よく暮せる工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドやクローゼットの準備もあるが、使い慣れた家具やベッドを持ち込まれている。居室には、家族の写真や好きなぬいぐるみ等置かれ、自分の好みの飾り付けを行う事で安心して過ごせる配慮がなされている。</p>		